



ディアナ・ES・スティクノ

在大阪インドネシア共和国総領事

(2020年12月より現在に至る)

ディアナ総領事は第23代在大阪インドネシア共和国総領事にして、初の女性総領事として任命を受ける。

2020年12月1日発令のインドネシア大統領決定 No.70/M of 2020 号により任命され、2020年12月7日にインドネシア外務大臣レトノ・マルスディ閣下の前で公式に就任の宣誓を行った。2021年2月6日に来日し、大阪に到着した。

インドネシア政府の公務について20年以上のキャリアを持ち、外務省の職務に限らず、2017年から2020年まではインドネシア医薬品食品監督庁 (BPOM)の国際協力局局長としても、ディアナ総領事は国内外のあらゆるレベルで国を代表してきた。

ディアナ総領事の公務は1998年に外務省から始まった。外務省企画及び組織局での勤務を経て、2003年から2007年までは在ジュネーブ国際機関インドネシア政府代表部で勤務、その後2007年から2010年まではジャカルタで外務省の人権人道理事会で勤務し、人権外交の分野に従事してきた。ジャカルタでは特に社会的弱者のグループ(女性、子供、高齢者、少数民族、等)の人権について取り組んできた。

ディアナ総領事はその後、ニューヨークの国連インドネシア政府代表部に派遣され、2010年から2014年の間、平和維持、紛争後の平和構築、調停、国連安全保障理事会を含む国際平和と安全問題に広範囲に渡って取り組んできた。

ニューヨークへの出発に先立って、ディアナ総領事は国連改革に取り組むことを任命される。特にインドネシアの役割が大変重要である人権条約団体に関して、歴史的な国連総会での決議の合意を得る為に、地域間共通の国々と共に取り組んだ。

ニューヨークでの任務が終了すると、ディアナ総領事は2014年から2017年8月までの間、国際平和安全担当副理事に任じられる。任務の一つは、外務省の上級官僚に、国連平和維持、調停、紛争後の平和構築に果たす女性の役割について、インドネシアが貢献できるよう、リーダーシップをとることを助言することだった。

国連平和維持問題に取り組んでいた間、ディアナ総領事はレバノンに派遣されている平和維持軍を訪問し、世界中の異なる地域で展開している様々な国連平和維持作戦に従事する司令官、インドネシア人男性兵士、女性兵士と面会する機会を得た。

2017年8月、ディアナ総領事はインドネシア医薬品食品監督庁協力局局長に任命される。そして休むことなく新型コロナのワクチンと薬の交渉に取り組み、殊にパンデミック初期には薬、ワクチン、新型コロナの実験研究所へのアクセスを提供するインドネシア政府の努力を支援した。

インドネシア医薬品食品監督庁での3年半の任期中、ディアナ総領事は WHO やイスラム諸国機構(OIC)を舞台に、アセアン諸国間や国際社会での食品と医薬品の交渉において、インドネシアがリーダーシップを発揮するのに影響を与え続けた。

ディアナ総領事は1994年にジャカルタのインドネシア大学で政治学学士号を取得、2000年には国際関係学修士号を所得した。

また、2001年には英国政府よりチーヴニング奨学生に選抜され、英国ノッティンガム大学法科大学院で、国際人権法を学んだ。

ディアナ総領事は現在スコット・アラン・ブルース・ミラー氏と幸せな結婚生活を送っている。

-----